

編集後記

土屋昌明論文は、隋唐時代の道教が文字に対していかなる観念・見解をもっていたのかを明らかにするために、北宋時代の道教經典の抜書『雲笈七籤』巻7「三洞經教部」の、文字に関する解説文32項目を校訂・訓読の上、注釈している。南北朝(梁)期(6世紀半ば)原本の『通門論』、初唐期(7世紀前半)の『玄門大義』、唐代の『三洞神符記』らの伝本と校合して、原解説文がはるかに明瞭な構成と内容であったことを導いている。原解説文の分析による道教の文字観をもっと詳しく知りたいと感じました。(ま)

執筆者紹介

土屋 昌明 経済学部教授

専修大学人文科学研究所月報

第249号(2011.2.28)

〒214-8580 神奈川県川崎市多摩区東三田2-1-1

専修大学人文科学研究所

発行者 小山利彦